

活字戦線異常あり

有川 浩

ありかわ ひろ／高知県生まれ。作家。「塩の街」で第10回電撃小説大賞＜大賞＞を受賞し作家デビュー。累計110万部突破の『図書館戦争』シリーズはコミカライズの他、プロダクションI.G制作のアニメDVDが好評発売中。また、阪急今津線を舞台にした短編連作集『阪急電車』（幻冬舎）もwebコミック『MAGNA』でコミカライズ連載中。

小説(以下「活字」と総称します)をエンターテインメントとしてとらえた場合。

現在、その地位は非常な危機に瀕しています。これはお手元に情報雑誌のひとつもあればすぐ実感して頂けます。エンタメ紹介コーナーで、活字本の定位置は大抵最後のページです。これが活字に対する世間の評価を如実にあらわしています。

ぶつちやけまして、もつ活字のライバルは活字じゃないんです。映画でありテレビであり漫画でありレジャーでありコスメであり(以下略)、およそ「娯楽」となり得る全てのものが活字のライバルです。現在、お財布のなかに「書籍費」を取りわけて下さるお客様は絶減危懼種に認定されてもいい。ウィトンのお財布八万円なら買ってくれる人が単行本一冊一六〇〇円を高いと仰る。これが活字の現状です。これ、ただだけ絶望的な戦況がおわかり頂けますでしょうか。——まともによつて勝てるわけねーだろーこんなんもん！

活字はもうこれまでの伝統を守つてただけじゃ勝てないんです。伝統として残るべきところは残るべきでしょうが、しかし奇襲を選ぶ活字があつてもそれは容認されていいのではないかと(容認されるとわたしのような日本語の汚い物書きも生きやすくなつて助かります)。

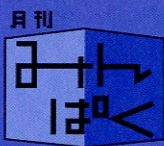
例えばケータイ小説。これを頭ごなしにバカにする

人は、どんなにその方が活字を愛しているとしても「活字の潜在敵」と言つて過言ではない。もしかしたらケータイ小説を入り口に「活字」の世界にもお出で下さる方がいるかもしれないのに、その可能性を根こそぎ刈つてしまつからです。だつて自分の好きなものばかりにした奴の「オススメ」に手を出さうつて人がいますか？ いるわきゃねえ。「活字」つてお高く止まつて感じ悪い」つて思いますわな、フツに。

活字は既になら上から目線でモノ言えるほど立場の強いエンタメ媒体じゃありません。しかし活字業界の体質は中々変わるうとしません。

例えば一般文芸の世界では「短編集は売れない」と判で押したように言われます。しかし「活字層」を広げていくなら、これからはむしろ短編集でしょう。活字になじみがない方でも気軽に手に取りやすいのは短編集、あるいは連作短編集です。短編集が売れない、とは従来の傾向しか見ていない発言です。出版界の体力があるうちに重厚な長編も押さえつつ短編集にも力を入れ、間口を広く取るのが長期的戦略と言えましょう。

お客様の開拓を放棄した業界は衰退します。限定されたパイを奪い合うより、パイそのものを広げる戦略のほうが建設的だと思つてますが——取り敢えず、「こうあるべき」な校則だらけの学校はつまらないよね、つてなところをひとつ眩いてみるとします。



目次

OCTOBER 2008 10
月刊まんがはく

01 エッセイ 世界へ世界から
活字戦線異常あり
有川 浩

02 特集 **インド映画**

ことばの壁を超える

杉本 良男

英国の南アジア系映画

池亀 彩

ハリウッドを誘う「インド洋の貴婦人」

—モーリシャスとインド映画

杉本 望子

インド映画と中国
—1980年代初期のブーム

潘 宏立

天山から愛を込めて

吉田 世津子

インドネシアのインド映画

小池 誠

南太平洋随一の映画産業

村田 晶子

モノ・グラフ

08 陶磁器に刻印されたまなざしの交錯

—特別展「アジアとヨーロッパの肖像」から

吉田 薫司

地球ミュージアム紀行

09 神奈川県立近代美術館葉山館の

5年間を振り返つて—展覧会業務の外で

棚山 昌夫

表紙モノ語り

11 ラバーリーの花婿用袋

上羽 陽子

12 みんなくインフォメーション

14 万国津々浦々
サイクロンから見たミャンマー
田村 克己

15 時論・新論・理想論
刺繍布に込められた思い
中谷 純江

16 外国人として生きる
「宝くじにあたったのはどっち？」
庄司 博史

18 歳時世相篇
⑦ハリ・ラヤ
オラン・アスリの祝祭日

信田 敏宏
生きもの博物誌
20 博物館のいたずら虫たち④

河村 友佳子
フィールドで考える
22 更紗産地が移転した本当の理由

金谷 美和
24 みんなく ウィークエンド・サロン

研究者と話そう
次号予告・編集後記